

講座名：【推薦】“その人の背景・事情を推測するセンサー”のメンテナンスをしよう！（対面形式）

研修名	“その人の背景・事情を推測するセンサー”のメンテナンスをしよう！ 全1回
概要	<p>暮らしの保健室“いえラボ”を運営する中で、地域の方々と対話を重ねる中で、医療者の助言をその人の生活状況に合わせて理解し、取り入れるための「ちょっとした助け」が必要であることに気づいた。その多くは病気そのものではなく、個々の背景や事情といった、日常の中にある些細な要因である。</p> <p>看護師は日々の実践の中で、患者や家族の表情や言動から「何かある」と感じ取るセンサーを本来備えている。しかし、業務の多忙さや職場環境の影響により、そのセンサーが作動しても行動に移せない状況が続くと、感度は次第に鈍化していく。そのことが、看護のやりがいや専門職としての充実感にも影響しているのではないかと考えた。</p> <p>本研修では、「5分」という限られた時間の対話に焦点を当て、短時間であっても背景や事情を推測するセンサーの感度を高めることで、患者・家族にとって質の高い看護を提供できる可能性を体感する。すでに自身が持っている力を再確認し、その力を患者・家族、さらには後輩指導においても自信をもって発揮できることを目指す。</p> <p>なお、本研修は日常の職場環境から一歩離れ、自身の実践を俯瞰する場として、東邦大学サテライトキャンパス“いえラボ”を会場とする。</p>
目的	<p>看護師が本来備えている「目の前にいる“その人”の背景や事情を察知するセンサー」をメンテナンスすることで、限られた時間の関わりの中でも質の高い看護を実践できる力を高め、後輩育成に活かすことができる。</p>
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 同職種としての強みを活かし、初対面でもチームで協働する力を高める チームビルディング（リーダーシップ・メンバーシップ）の基本を理解し、短時間で信頼関係を築く実践力を養う。 2. 患者・家族との関わりをためらう要因に多面的に気づき、関わりの質を高める視点を獲得 自身の行動の背景にある感情や思考を見つめ、多忙さ以外の内的・外的要因を検討できる力を身につける。 3. 模擬患者との実践を通して、自分の関わりを客観的に振り返り、改善の視点を獲得 フィードバックを受け取り、自己の関わり方に気づき、行動の選択肢を広げる。 4. 他施設の参加者との交流を通じて視野を広げ、自身の実践や指導に活かす 交流や対話によって得られた気づきを、自施設に持ち帰り、教育・指導に反映させる。
方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 暮らしの保健室の相談内容から見える病院、医療者、看護師について 2. 経験の共有 <ul style="list-style-type: none"> ・ センサーが作動したにも関わらず、行動を起こせなかった要因を探る（他施設のメンバーとのグループワーク） 3. 全体共有と考察 4. 模擬実践 5. 振り返り
開催日時	<p>日程：2026年7月21日（火）</p> <p>時間：10～15時頃を予定</p>

講座／研修管理番号3
2026年度看護企画室キャリア支援セクション

開催場所	東邦大学サテライトキャンパス “いえラボ” (大田区西嶺町 11-25 グランデュール西嶺 103)
講師	東邦大学 地域連携教育支援センター／看護学部 センター長 横井郁子 教授
対象	①リーダー業務を担う者、主任および師長補佐のうち本研修に興味があり上司の推薦のある者 ②研修の学びを後輩育成に活用できる者
定員	9名(大森3 大橋3 佐倉3)
受講料	無料
申し込み 期間	講座管理システムへの申し込み 2026年4月13日(月)～2026年4月20日(月) 講座管理システム申し込み締め切り 2025年4月20日(金) 12:00
参加方法	東邦大学看護企画室キャリア支援セクション講座管理システムよりお申し込みください。 ※受講者本人による申し込みが必要です https://kk.nurs.toho-u.ac.jp/kk/kklogin.php ※上司からの推薦文が必要です。受講生が申し込み時に入力してください。
特記事項	昼食は各自ご用意ください。
開講責任者	東邦大学法人本部看護企画室キャリア支援セクション：徳留彰子
連絡先 問合せ	電話：03-3762-9890(直通) 03-5763-6529(看護企画室) 内線：5383(直)/2162(看) メールアドレス： career@jim.toho-u.ac.jp